

# SYLLABUS

2024



別府市医師会立別府青山看護学校

3年課程

# 専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

## 専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

# 領域横断

科目区分	専門分野	科目名	家族看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前～後期	時 間	15 時間
担当教員	甲斐 有美子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・看護師養成所教員経験		
目 的	家族全体を看護の対象と考え、家族の力を最大限に引き出し、家族全体の健康を目指し、未来の危機に備える力をつける支援について理解する。				
目 標	1.家族看護の特徴や理念、対象について理解する。 2.家族看護について理解する。 3.家族看護を支える理論と介入方法を理解する。 4.家族看護の展開を理解する。				DP への対応 DP1 DP2 DP3 DP4、5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	家族看護の特徴について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイドランス 家族看護について説明する。 家族看護の特徴と理念 家族看護の発展と変遷 家族看護の 目指すところ 家族員が疾患や障害を持つ家族 ライフ サイクルと家族 コミュニティと家族			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	家族看護の目的や対象について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	家族看護の対象について説明する。 家族とは 家族構造 家族機能 現代家族とその課題			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	家族看護を支える理論と介入方法について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	家族看護を支える理論と介入方法を説明する 家族を理解するための理論 家族の変化を理解するための理論 家族に変化をもたらすもの			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	家族看護の展開方法を理解する		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	家族看護展開の方法を説明する 家族看護過程とは 家族看護の実践			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	様々なアセスメントモデルについて理解する		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	家族アセスメントモデルを説明する さまざまな家族アセスメントモデル			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	事例に対する看護介入について理解する		配布資料 パワーポイント	
	授業予定	事例に基づく家族看護の介入と評価について説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	事例に対する看護介入について理解する		配布資料 パワーポイント	
	授業予定	事例に基づく看護の介入と評価について説明する			
第 8 回		まとめ 終講試験(50分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。			
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 別巻 家族看護学：医学書院 e テキスト			
	参考図書				
	その他	配布資料、パワーポイント			
授業以外の学習方法		グループワークや発表会を行なう			
履修上の留意点		事前課題や、予習・復習を行なう			

科目区分	専門分野	科目名	保健指導論	単 位	1単位
対象学年	2学年	学 期	前期・後期	時 間	30時間
担当教員	甲斐 有美子 山元 清子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・看護師養成所教員経験 あおい産婦人科 助産師・看護師養成所教員経験		
目 的	地域の健康課題や保健指導に必要な基礎理論を理解し、人々の健康増進を目指すアプローチの基本的な考え方を学び、看護師の役割を考える。				
目 標	1. 統計データを読み取り、地域の実情を学ぶ 2. 統計データを読み取り、発達段階別、健康段階別の健康課題について理解する 3. 健康課題に対する現行の法律や施策を理解する 4. 保健指導に必要な基礎理論と、保健指導の方法について学ぶ 5. 保健指導の意義を理解する 6. 健康問題に関わる看護師の役割を理解する				DPへの対応 DP3. 5, 6 DP2. 3, 5, 6 DP3. 6 DP1. 2, 3, 5, 6 DP2. 3, 4, 5, 6 DP2. 3, 4, 5, 6
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準 備 学 習	
第 1・2 回 〔講義〕	到達目標	社会の変化と保健にかかわる意義について理解する	配布資料 テキスト PP	各領域看護学概論 各領域看護方法論 公衆衛生学 社会福祉 臨床心理学 看護倫理 解剖生理学 疾病論 在宅・看護論実習 I	
	授業内容	1. ガイダンス 2. 社会の変化(出生率・死亡率・有訴者率・有病率・健診受診率・医療費の推移など)を説明する 3. 健康と病気のとらえ方、ヘルスプロモーションの概念を説明する 4. 健康課題と施策を説明する(働く人の健康課題と管理・感染予防と施策・障害者、難病保険と施策・別府市が抱える健康課題) 5. 看護の役割を説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	教育・指導とは何かを理解する	配布資料 テキスト PP		
	授業内容	1. 教育・指導とは何かを説明する 2. 健康教育のアプローチ方法を説明する 3. 個人と集団に対するアプローチ方法を説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	ライフステージ各期の健康課題と、健康を守る法律・施策について理解する	配布資料 テキスト PP		
	授業予定	1. ライフステージ各期の健康課題を説明する(乳幼児・学童期・成人期・高齢者など) 2. 健康を守る法律・施策、ヘルスプロモーションの概念を説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	保健指導の基礎理論と方法について理解する	配布資料 テキスト PP		
	授業予定	1. セルフケア理論を説明する 2. 自己効力理論を説明する 3. コーチングを説明する			
第 6・7 回 〔講義・演習〕	到達目標	ライフステージ各期の健康問題に対する健康教育の実際と評価について理解する	配布資料 テキスト PP		
	授業予定	1. ライフステージ各期の健康問題を抽出し、必要な支援を説明する。 2. ライフステージ各期の健康問題に対する実践と評価方法を理解する。			
第 8 回 〔講義〕 ゲストティーチャー	到達目標	女性のライフステージ各期の健康課題について理解する	配布資料 テキスト PP		
	授業予定	1. 女性の生涯における健康問題を説明する 2. 思春期のヘルスプロモーションを説明する 3. 成熟期のヘルスプロモーションを説明する 4. 更年期のヘルスプロモーションを説明する 5. 老年期女性のヘルスプロモーションを説明する			

第 9 回 〔講義〕	到達目標	生活習慣病重症化予防保健指導の実際を理解する	配布資料 テキスト PP
	授業予定	1. 事例を用いて対象を理解する。 2. 支援対象者毎に情報整理・アセスメント・健康問題の抽出を行う。 3. 各個人や家族への支援計画を考える 4. 実践・評価を行う。 1～4一連の説明を行う。	
第 10～13 回 〔講義・演習〕	到達目標	第 9 回と同様	配布資料 テキスト PP
	授業予定	第 9 回と同様	
第 14 回 〔講義〕	到達目標	事例と健康教育活動を振り返り、保健指導の概念と倫理について理解できる	配布資料 テキスト PP
	授業予定	1. 講義のまとめ・補足	
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)	
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講時筆記試験 60%、レポート 40%、60%未満は再試験とする。	
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学概論 ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論：医学書院 e テキスト ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論：医学書院 e テキスト ④系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ：医学書院 e テキスト ⑤系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論：医学書院 e テキスト ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学：医学書院 e テキスト ⑦系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生：医学書院 e テキスト	
	参考図書	国民衛生の動向	
	その他	講義内容及び進度は演習状況により変更となる可能性がある	
授業以外の学習方法		グループワークや発表会に向け、資料準備や自己学習を行う	
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む	

科目区分	専門分野	科目名	周術期と看護	単 位	1単位
対象学年	2学年	学 期	前期	時 間	30時間
担当教員	服平 敏枝 甲斐 有美子 山元 清子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・専任教員 病院における看護師経験・看護師養成所教員経験 あおい産婦人科 助産師・看護師養成所教員経験		
目 的	周術期にある対象を理解し、対象の状況のアセスメント・合併症予防・回復過程における援助・家族の反応に対する援助を实践できるための、基礎的知識を理解する				
目 標	1. 周術期における、本人・家族のニーズを理解する 2. 周術期においては、迅速な観察と適切な判断・対応が重要であることを理解する 3. 迅速な観察と適切な判断・対応のための、基礎的な知識・技術を理解する				DPへの対応
					DP1・2 DP3・4・5 DP3・4・6
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準備学習	
第 1 回 〔講義〕	到達目標	周術期の看護の概要と看護師の役割について理解する	テキスト① ②③	成人看護学概論	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 急性期看護の特徴を説明する 3. 周術期看護の理念と専門性を説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	手術侵襲と生体反応について理解する	テキスト① ②④⑥	治療論	
	授業内容	1. 手術方法による影響とその援助を説明する 2. 術後合併症のリスクアセスメントを説明する 3. 術後合併症の予防を説明する 4. 生体侵襲理論、ムーアの分類について説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	術前の患者と家族への看護について理解する	テキスト② ④		
	授業予定	1. 手術の意思決定への援助方法を説明する 2. 不安のアセスメントとその援助方法を説明する 3. 術前指導・術前訓練の方法を説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	1. 麻酔の種類と、周術期の管理について理解する 2. 術中の患者の看護について理解する	テキスト② ③⑤	治療論	
	授業予定	1. 麻酔方法による影響とその援助、および麻酔導入の援助方法を説明する 2. 手術体位と固定方法およびその影響を説明する 3. 全身麻酔と局所麻酔の合併症を説明する 4. 手術中の看護師の役割を説明する 5. 麻酔覚醒時の援助方法を説明する			
第 5 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	1. 術直後の患者と家族への看護について理解する 2. 周術期に必要な技術を習得する	テキスト② ③⑤⑥		
	授業予定	1. 術後ベッド作成の方法を説明する 2. 術直後のモニタリング方法を説明する 3. 術後の疼痛管理方法を説明する 4. ドレーン管理の方法を説明する 5. 術後合併症の予防技術(スクイーミング、体位ドレナージ)の方法を説明する			
第 6 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	第5回に同じ			
	授業予定	第5回に同じ			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	1. 重症集中治療を受ける患者の看護について理解する 2. 低侵襲手術を受ける患者の看護について理解する	テキスト⑤ ⑥		
	授業予定	1-1.クリティカルケア看護におけるチーム医療の特徴と看護の役割を説明する 1-2.関連する主な医療チームと、多職種との連携を説明する 1-3.クリティカルケア看護に必要な看護技術(低体温)			



		2-1.腹腔鏡下手術を受ける患者の看護を説明する 2-2.内視鏡下手術を受ける患者の看護を説明する		
第 8 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	術後の患者と家族への看護について理解する	テキスト② ③⑤⑥	
	授業予定	術後回復過程と看護 1. 術後の機能障害や生活制限への看護を説明する 2. ボディイメージ変容への援助方法を説明する フィンク、コーンの理論 3. 早期回復促進への援助方法を説明する 4. ストマケアの方法について説明する		
第 9 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	第 8 回と同じ		
	授業予定	第 8 回と同じ		
第 10 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	周術期にある子供とその家族の看護について理解する	テキスト⑦	小児看護学
	授業予定	1. 小児の手術の特徴を説明する 2. 手術を受ける子供と家族の反応を説明する 3. 手術を要する健康障害と手術の時期を説明する 4. 術前準備、プレパレーションを説明する 5. 小児の安全・安楽への看護と家族への援助を説明する 6. 手術後の身体状態のアセスメントと看護を説明する 7. 退院に向けての看護を説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	周術期にある高齢者の看護について理解する	テキスト③ ④	老年看護学
	授業予定	1. 周術期にある高齢者の特徴とニーズを説明する 2. 手術療法時の高齢者に対する看護を説明する		
第 12 回 〔講義〕 (山元)	到達目標	帝王切開を受ける産婦の看護について理解する	テキスト⑧	母性看護学
	授業予定	1. 術前オリエンテーションと心身の準備を説明する 2. 術後合併症予防の準備を説明する 3. 術中の看護を説明する 4. 術後の身体的回復への援助を説明する 5. 母子接触を説明する 6. 出産体験の振り返りを説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開および臨床判断を理解する		
	授業予定	周術期看護の、看護過程および臨床判断を説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開および臨床判断を理解する		
	授業予定	周術期看護の、看護過程の方法および臨床判断を説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講時筆記試験 100% ※60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学概論:医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論:医学書院 e テキスト ③系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ:医学書院 e テキスト ④周手術期看護 1. 外来/病棟における術前看護:医歯薬出版株式会社 ⑤周手術期看護 2. 術中/術後の生体反応と急性期看護:医歯薬出版株式会社 ⑥系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学:医学書院 e テキスト ⑦系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論:医学書院 e テキスト ⑧系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論:医学書院 e テキスト ⑨系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学		
	その他			
授業以外の学習方法		グループワークをとおして事例展開や臨床判断を行う		
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む		

科目区分	専門分野	科目名	薬物療法と看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	川野 明子 甲斐 有美子 山元 清子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・専任教員 病院における看護師経験・専任教員 あおい産婦人科 助産師		
目 的	薬物療法を必要とする対象を理解し、必要な援助を実践できるための基礎的知識を修得する				
目 標	1. 薬物療法における看護師の役割を理解する 2. 発達段階に応じた薬物療法の実際を理解する 3. 主な疾患に対する薬物療法の実際と、その看護について理解する 4. 薬物療法を適切に行っていくためには、多職種連携が必要であることを理解する				DP への対応 DP3,4,6 DP1,2,3,5,6 DP3,4,5 DP1,4,5,6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	薬物療法における看護師の役割について理解する		テキスト① ② 参考図書②	基礎看護技術Ⅱの 与薬（特に P310～ 314）
	授業予定	1. ガイダンス 2. 医薬品の特徴と体内動態を説明する 3. 薬物の相互作用とハイリスク患者を説明する 4. コンプライアンスとアドヒアランスを説明する 5. 薬物療法における看護師の役割を説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の薬物療法の課題と看護について理解する		テキスト① ②⑥⑦ 配布資料	
	授業内容	1. 加齢に伴う薬物動態の変化を説明する 2. 薬剤起因性老年症候群を説明する 3. ポリファーマシーと薬物有害事象を説明する 4. 精神科薬物療法における看護師の役割を説明する 5. 薬物療法をうける高齢者の看護を説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	対症療法薬の特徴と看護について理解する		テキスト① ②③ 参考図書② 配布資料	
	授業予定	1. 解熱鎮痛薬・鎮静薬の特徴と看護について説明する 2. 制吐薬の特徴と看護について説明する 3. 便秘・下痢治療薬の特徴と看護について説明する 4. 鎮咳・去痰薬の特徴と看護について説明する 5. 睡眠薬の特徴と看護について説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	主要疾患の薬物療法と看護について理解する		テキスト① ② 参考図書② 配布資料	
	授業予定	1. 循環器疾患の薬物療法と看護の実際を説明する 2. 呼吸器疾患の薬物療法と看護の実際を説明する 3. 消化器・内分泌疾患の薬物療法と看護の実際を説明する 4. 泌尿器疾患の薬物療法と看護の実際を説明する 5. 脳神経疾患の薬物療法と看護の実際を説明する 6. 運動器疾患と看護の実際を説明する			
第 5 回 〔講義〕 (山元)	到達目標	妊産婦の薬物療法の課題と看護について理解する		配布資料	
	授業予定	1. 妊婦の薬物動態の特徴を説明する 2. 薬物が胎児に与える影響を説明する 3. 妊婦への与薬で注意すべき薬物と禁忌薬物を説明する 4. 母乳を介した乳児への薬剤の影響を説明する 5. 授乳中に注意が必要な薬剤を説明する			
第 6 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	小児の薬物療法と看護の実際について理解する？		配布資料	
	授業予定	1. 薬物療法を必要とする子供の特徴を説明する 2. 薬物療法が子供に与える影響を説明する 3. 年齢に見合ったセルフケア能力の育成方法を説明する 4. 心理・社会的健康の維持方法を説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	在宅における薬物療法の課題と看護について理解する		テキスト⑥ ⑦	
	授業予定	1. 服薬状況の把握方法を説明する			

		2. セルフマネジメント力を高める支援の方法を説明する 3. 医師及び薬剤師との連携方法を説明する 4. 外来通院中の在宅療養者に対するケア(麻薬投与・外来化学療法)を説明する		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	化学療法の特徴と看護師の役割について理解する	テキスト② ④	
	授業予定	1. 抗がん剤の与薬と症状マネジメントを説明する 2. 抗がん剤の曝露防止対策について説明する 3. 抗がん剤漏出時の対応について説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	在宅で化学療法を受ける患者への看護について理解する	テキスト② ④⑦	
	授業予定	1. 在宅で化学療法を受ける患者の事例と看護師の役割について説明する 2. 抗がん剤の与薬と症状マネジメントを説明する 3. 治療継続と生活の両立のための支援を説明する		
第 10 回 〔演習〕	到達目標	対象の発達・健康状態に応じた薬物療法について理解する	配布資料	服薬指導の発表用資料を作成する。
	授業予定	1. 事例演習のガイダンス (高齢者の服薬困難) 2. 対象の特性と必要な薬物療法について集約できる 3. 対象への与薬と看護の方向性について議論できる		
第 11 回 〔演習〕	到達目標	対象の発達・健康状態に応じた薬物療法について理解する		服薬指導の発表用資料を作成する。
	授業予定	1. 対象の特性と必要な薬物療法について集約できる 2. 対象への与薬と看護の方向性について議論できる		
第 12 回 〔演習〕	到達目標	対象の発達・健康状態に応じた薬物療法について理解する		服薬指導の発表準備を行う。
	授業予定	1. 対象の特性と必要な薬物療法について集約できる 2. 対象への与薬と看護の方向性について議論できる 3. 服薬指導の具体的な方法を説明できる		
第 13 回 〔演習〕	到達目標	対象の発達・健康状態に応じた薬物療法について理解する	各グループの発表用資料	
	授業予定	1. 対象の特性と必要な薬物療法について集約できる 2. 対象への与薬と看護の方向性について議論できる 3. 服薬指導の具体的な方法を説明できる		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	薬物治療と生活の支援についての考えをまとめる	テキスト② ⑤	
	授業予定	1. 薬物治療における安全管理を説明する (ハイリスク薬、インシデント、薬剤管理) 2. 服薬指導とアドヒアランスを高める工夫をまとめる		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講時筆記試験 60%、演習 (GW・レポート) 40%、計 60%未滿は再試験となる。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 臨床看護総論 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ③系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ④系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ⑤系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 2 医療安全 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ⑥系統看護学講座 専門分野 老年看護学概論 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ⑦系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 (医学書院) : 医学書院 e テキスト		
	参考図書	①系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 (医学書院) : 医学書院 e テキスト ②治療薬マニュアル 2023 (医学書院)		
	その他			
授業以外の学習方法		第 10～13 回の授業では、高齢者の服薬困難事例について擬服薬指導の演習を行う。グループワークでは事例患者の問題解決に必要な調べ学習、必要な看護介入の検討、学習成果の資料作成と発表を行う。		
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む。		

科目区分	専門分野	科目名	終末期と看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①佐藤 隼人 ②甲斐 有美子	実務経験 関連資格	① 九州大学病院別府病院 看護師・緩和ケア認定看護師 ② 病院における看護師経験・看護師養成所教員経験		
目 的	終末期にある対象とその家族を理解し、必要な援助を実践できるための基礎的知識を理解する				
目 標	1. 終末期にある対象を理解する 2. 緩和ケアの実際を理解する 3. 死の受容について理解する 4. 看取りについて理解する 5. 死亡時の看護で大切なことについて理解する				DP への対応 DP1・2 DP3・4・5 DP1・2・3・4 DP4・5 DP2・4・6
	授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	「緩和ケアとは」概要を理解する。		テキスト 配付資料	成人看護方法論IV 第5・6・7回
	授業予定	1. ガイダンス 2. 日本におけるホスピス・緩和ケアの歴史 3. 緩和ケアにおける多職種チームアプローチ 4. 緩和ケアを提供する看護師に求められる基本的態度			
第 2 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	緩和ケアにおける倫理について理解する。		テキスト 配付資料	
	授業内容	1. 倫理的問題の考え方 2. 緩和ケアで直面する倫理的問題 3. アドバンス・ケア・プランニング			
第 3 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	緩和ケアにおけるコミュニケーションについて理解する。		テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 緩和ケアにおけるコミュニケーション 2. 緩和ケアで活用できるコミュニケーション・スキル 3. 緩和ケアにおける意思決定とケア			
第 4 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	痛みについて理解する。 症状マネジメントについて理解する。		テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 痛みとは 2. 痛みのアセスメント 3. 痛みに対する薬物療法 4. スピリチュアルペイン			
第 5 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	終末期にある対象の理解 成人期における終末期の特徴を理解する 成人期における死のとりえ方について理解する		テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 終末期の定義を説明する 2. 終末期にある対象の特徴と生活の変化を説明する 3. 終末期の身体機能低下によって生じるニーズを説明する 4. 症状緩和の援助方法を説明する 4. 成人期における終末期の特徴を説明する(事例検討)			
第 6 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	終末期にある対象の理解 老年期における終末期の特徴を理解する		テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 終末期のとりえ方を説明する 2. ACP、リビングウィル、人生会議を説明する 3. 家族の参加と家族支援を説明する 4. 終末期看護の実践方法を説明する			
第 7 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	高齢者の死のとりえ方について理解する		テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 老年期における終末期の特徴を説明する(事例検討)			

第 8 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	終末期にある対象の理解 小児における終末期の特徴を理解する 子供と家族の死のとらえ方について理解する	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 小児の死の概念を説明する 2. 死に対する小児の反応と援助方法を説明する 3. 終末期にある小児の心身の状態と緩和ケアの方法を説明する 4. 小児の死を看取る家族の反応と援助方法を説明する 1. 小児における終末期の特徴を説明する(事例検討)		
第 9 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	死亡時の看護について理解する	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 死の兆候とケアを説明する 2. 死亡後のケアを説明する 3. 家族の心理を説明する 4. 臨死期の対応を説明する 5. 遺族への関わり(グリーフケア)を説明する		
第 10 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	成人の看取りと臨終時のケアについて理解する	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 身体徴候のアセスメントと看護を説明する 2. 苦痛の緩和と安楽への看護を説明する 3. 精神的苦痛や混乱に対する看護を説明する 4. 臨死期の評価と看護を説明する 5. 家族への援助方法を説明する		
第 11 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	在宅における看取りの援助について理解する	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 症状マネジメントの方法を説明する 2. 終末期緩和ケアの実際を説明する 3. 看取りの看護、家族へのグリーフケアを説明する 4. 自宅で死を迎えることの意味を説明する		
第 12 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	看護過程の展開方法を理解する①	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 終末期看護の看護過程展開方法を説明する(事例展開)		
第 13 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	看護過程の展開方法を理解する②	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 終末期看護の看護過程展開方法を説明する(事例展開) 2. 苦痛緩和の技術を説明する		
第 14 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	看護過程の展開方法を理解する③	テキスト 配付資料	
	授業予定	1. 終末期看護の看護過程展開方法を説明する(事例展開) 2. 倫理的配慮を説明する 3. ACP の在り方について説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講時筆記試験 60%、レポート 40%、計 60%未滿は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学概論 (医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 (医学書院) ③系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) ④系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院) ⑤系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) ⑦系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学概論 (医学書院)		
	参考図書			
	その他	講義内容及び進度は状況により変更となる可能性がある		
授業以外の学習方法		DVD の視聴・グループワークなど		
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む		

科目区分	専門分野	科目名	専門職連携	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①岡部 裕美 ②田能村 祐一 ③中元 克熙 ④長 貞香 ⑤石和 梨沙 ⑥堀田 優子 森永 直美 松井 美穂 ⑦富松 優也 田中美保子 ⑧岡部 武志 ⑨藤塚 悦子	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・専任教員 ②別府市医師会 ICT・地域医療連携室 室長 兼地域保健センター管理者 ③中村病院 理学療法士 ④西別府病院 作業療法士 ⑤西別府病院 言語聴覚士 ⑥別府市医師会地域保健センター 検査技師  ⑦別府市医師会地域保健センター 放射線技師  ⑧織部泌尿器科 臨床工学技士 ⑨別府市医師会地域保健センター 保健師		
目 的	地域包括ケア・地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉における多職種連携・協働の観点から、保健医療専門職業人として知識および考え方・態度を習得することを目的とする。				
目 標	1. 保健・医療・福祉の場における、様々な専門職種の役割と活動の実際を理解する。 2. 多職種連携における看護師の役割を理解する。 3. 多職種連携における総合的・包括的なケアの提供について理解する。 4. 事例をとおして、保健・医療・福祉の場における多職種の連携を創造する。				DP への対応 DP 5 DP 5 DP 5 DP 5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携・協働の必要性、役割、機能について、看護の視点から理解する。			
	授業予定	1. ガイダンス 2. 多職種連携・多職種協働の意義について説明する。 3. 多職種連携の必要性、多職種の専門的役割について説明する。 4. 地域包括ケアについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (田能村)	到達目標	多職種連携・協働の必要性、役割、機能について、地域連携専門職の視点から理解する。			
	授業内容	1. 別府市医師会地域連携室の役割と活動の実際について説明する。 2. 多職種連携・多職種協働の意義について説明する。			
第 3 回 〔講義〕 (理学療法士)	到達目標	理学療法士の役割と多職種連携について理解する。			
	授業予定	1. 理学療法士の活動の実際について説明する。 2. 理学療法士の立場から多職種連携の必要性について説明する。			
第 4 回 〔講義〕 (作業療法士)	到達目標	作業療法士の役割と多職種連携について理解する。			
	授業予定	1. 作業療法士の活動の実際について説明する。 2. 作業療法の立場から多職種連携の必要性について説明する。			
第 5 回 〔講義〕 (言語聴覚士)	到達目標	言語聴覚士の役割と多職種連携について理解する。			
	授業予定	1. 言語聴覚士の活動の実際について説明する。 2. 言語聴覚士の立場から多職種連携の必要性について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	1. 検査技師の役割と多職種連携について理解する。 2. 放射線技師の役割と多職種連携について理解する。			

(検査技師) (放射線技師)	授業予定	1. 検査技師・放射線技師の活動の実際について説明する。 2. 検査技師・放射線技師の立場から多職種連携の必要性について説明する。		
第 7 回 〔講義〕 (臨床工学技士)	到達目標	臨床工学技士の役割と多職種連携について理解する。		
	授業予定	1. 臨床工学技士の活動の実際について説明する。 2. 臨床工学技士の立場から多職種連携の必要性について説明する。		
第 8 回 〔講義〕 (保健師)	到達目標	保健師の役割と多職種連携について理解する。		
	授業予定	1. 保健師の活動の実際について説明する。 2. 保健師の立場から多職種連携の必要性について説明する。		
第 9 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携と看護職の役割について理解する。		地域包括ケアを支えている様々な人・関係職種 の役割について復習しておくこと。
	授業予定	1. オリエンテーション ①事例紹介 ②グループワークのすすめ方 2. 事例展開：グループワーク		
第 10 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携と看護職の役割について理解する。		
	授業予定	1. 事例展開：グループワーク		
第 11 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携と看護職の役割について理解する。		
	授業予定	1. 事例展開：グループワーク		
第 12 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携と看護職の役割について理解する。		
	授業予定	1. 事例展開：グループワーク		
第 13 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携と看護職の役割について理解する。		
	授業予定	1. 事例展開：グループワーク（発表会）		
第 14 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	多職種連携と看護職の役割について理解する。		
	授業予定	1. 事例展開：グループワーク（発表会）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：①グループワーク成果 (30%) ②終講筆記試験 (70%) ※①②の総合点が 60%未満の場合は、再試験とする。		
使用教材	テキスト			
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		*1 年次からの講義・実習における学びを想起しながらの履修である。 *看護の対象を支える様々な人・関係機関・関係職種について学習したこと、経験したことをもとに学習をすすめる。		
履修上の留意点		*グループワークの成果は個人の評価に繋がるものであるため、グループの協力が欠かせないものであることを理解しておくこと。		

科目区分	専門分野	科目名	継続看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 専任教員		
目 的	看護の対象は、入院患者だけではなく健康な時から一生を通じて生活者としてみていくことが大切である。2025年には、わが国の高齢者人口がピークを迎えるため病院と地域をつなぐ継続看護が重要となる。ここでは、専門職業人として多職種と連携しながら退院支援の方向性や具体策について理解する。				
目 標	1. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する。 2. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について理解する。 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと看護の役割について理解する。			DP への対応	
				DP2 DP3 DP4 DP5 DP6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	老年看護における生活の場の移行と看護の継続について理解する		テキスト① テキスト②	
	授業予定	・ガイダンス ・看護職間の情報提供・目標の共有と評価について説明する ・看護と介護の協働と連携について説明する		テキスト③ テキスト⑤ 配布資料	
第 2 回 〔講義〕	到達目標	施設との入退所時の連携について理解する		テキスト②	
	授業内容	・入院時・入所時・サービス開始時の援助と退院支援・退所支援について説明する ・介護保険施設等の公的施設との連携・サービス付き高齢者向け住宅等の民間施設との連携について説明する		テキスト③ テキスト⑤ 配布資料	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	医療的ケアを必要とする児の成長発達や家族に及ぼす影響を理解する		テキスト③ テキスト④	
	授業予定	・在宅療養中の子どもと家族の支援について説明する ・子どものセルフケア行動の促進について説明する		テキスト⑤ 配布資料	
第 4 回 〔講義〕	到達目標	医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護を理解する		テキスト③ テキスト④	
	授業予定	・入院生活から在宅への移行に向けた支援について説明する ・多職種の連携と社会資源の活用について説明する		テキスト⑤ 配布資料	
第 5 回 〔講義〕	到達目標	対象者主体の生活を送るために必要な地域の協力や社会資源の活用について理解する		テキスト① テキスト③	
	授業予定	・地域の社会資源活用について説明する ・セルフマネジメントを高める支援や家族のセルフケア能力を高める支援について説明する		テキスト⑤ 配布資料	
第 6 回 〔講義〕	到達目標	医療機関との入退院時の連携について理解する		テキスト①	
	授業予定	・地域連携クリニカルパス・外来との連携・病棟との連携・退院支援部門との連携・診療所との連携について説明する		テキスト③ テキスト⑤ 配布資料	
第 7 回 〔講義〕	到達目標	継続看護の重要性について理解する		テキスト①	
	授業予定	・継続看護と退院支援の定義について説明する ・退院支援における多職種連携について説明する ・継続看護における看護師の役割が説明できる		～⑤ 配布資料	
第 8 回		まとめ 終講試験(50分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 80% グループワークの参加状況 10% 出席状況 10%			



		計60%未満は再試験とする
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 成人看護学概論 ②系統看護学講座 老年看護学 ③系統看護学講座 在宅看護論 ④ 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 (医学書院)
	参考図書	⑤よくわかる退院支援 G a k k e n 配布資料、パワーポイント
	その他	
授業以外の学習方法		事例展開をして、グループワークや発表会を行う
履修上の留意点		教科書の予習・復習をして実習に臨むこと

